

**第 17 回**  
**大阪男声合唱団**  
**定期演奏会**

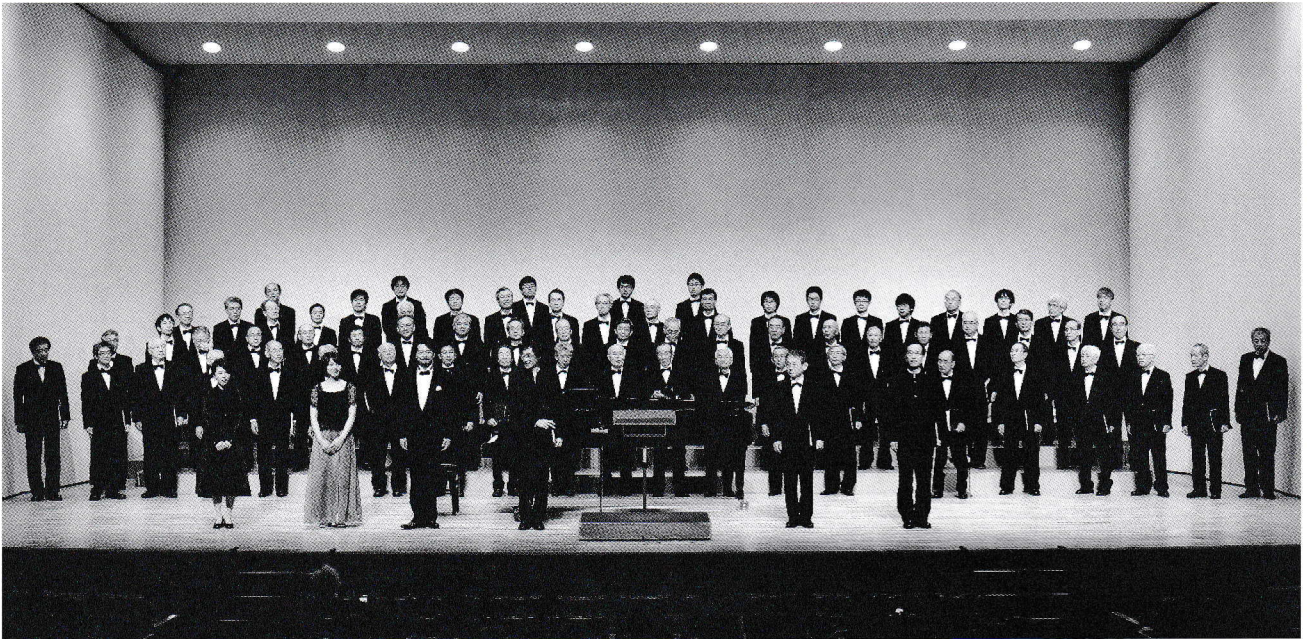
**2017 年 7 月 16 日(日)**

開場 13:15 開演 14:00

**第一生命ホール**

主催:大阪男声合唱団

後援:大阪大学男声合唱団OB会



第16回定期演奏会 (2016年7月24日 ドーンセンター)

## ご挨拶

お暑い中、本日のご来場まことにありがとうございます。

大阪男声合唱団は大阪大学男声合唱団のOBによって1954年に発足、時に消滅の危機に晒されながらも今日に繋がり、2001年から始めた毎年の定期演奏会が、今回で17年目となりました。東京支部との合同に賛助のOBを加え、今回は60名を超えるステージとなりました。第12回からスタートした東京、大阪の隔年開催が定着し、来年は大阪での開催となります。

「Sea Shanty」では大阪外国語大学グリーククラブOB合唱団(東京)の皆様が共に歌って下さり、一味違ったステージとなりそうです。

私事で恐縮ですが、私は東京生まれ、小学校4年生までは今は廃校となった赤坂の氷川小学校に通っていました。勝鬃橋のたもとまで歩き、釣りを楽しんだりもしました。それから60年以上も経ってここトリソンの第一生命ホールで歌えるのはちょっとした感慨なのです。

団員の平均年齢は70歳に近づいていますが、気持ちはまだまだ青年、これからも成長し続けたいと思っておりますので、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

どうぞ最後までごゆっくりお過ごしください。演奏の出来や選曲、本プログラム冊子の内容等について、ご意見、ご感想を団員にお寄せくださると幸甚です。

本日のご来場、心からお礼申し上げます。

大阪男声合唱団 団長 今村 陽一

# ———— プ ロ グ ラ ム ————

## I. 遙かなるロシアの大地 ～ロシア音楽メドレー～

編曲：青木 雅也

指揮：甲和 伸樹      ピアノ：坂田 百合子

## II. 男声合唱とピアノのための 新しい歌

作曲：信長 貴富

指揮：萩原 寛明      ピアノ：内藤 菜穂子

1. 新しい歌
2. うたを うたう とき
3. きみ歌えよ
4. 鎮魂歌へのリクエスト
5. 一詩人の最後の歌

~~~~ 休 憩 ~~~~

## III. Sea Shanty

指揮：坂田 裕二      ピアノ：内藤 菜穂子

1. Swansea Town
2. Good-Bye, Fare Ye Well
3. Whup! Jamboree
4. Shenandoah

## IV. 合唱による風土記 阿波

作曲：三木 稔

指揮：本城 正博

1. たいしめ
2. 麦打ち
3. もちつき
4. 水取り
5. たたら

# 曲目解説

## I. 遙かなるロシアの大地 ～ロシア音楽メドレー～

男声合唱曲「遙かなるロシアの大地 ～ロシア音楽メドレー～」は、文字どおり、ロシア由来の楽曲を合唱指揮者でもある青木雅也が集めてメドレー曲として編曲した男声合唱曲です。曲中の断片として聞こえてくるさまざまなメロディーは、ある世代以上の方々であれば、必ず耳にしたことのあるものばかりだと思います。

「ロシア」という言葉自体は、世代によってその言葉の受け取られ方はかなり異なってくるのではないのでしょうか。記憶の奥底に埋もれさせてしまいたい方、若き日の熱い思いをこの言葉とともに思い出す方、ソヴィエト連邦崩壊後の「ロシア連邦」という認識しか無い方。それぞれの方ごとの異なった思いによって、ロシア音楽と聞いて思い浮かぶ曲も異なってくると思いますが、それらの曲の多くが遙か彼方まで延々と広がるロシアの大地を想起させるという共通点を持っているように思えます。

今回のメドレーを構成する15曲のロシア音楽は、大きくは「ロシア人作曲家によるクラシック音楽」と「日本では一般的に『ロシア民謡』と呼ばれてきた歌曲」に大別されます。

これら『ロシア民謡』と呼ばれている曲の多くは、第2次世界大戦後に主には抑留帰国者達によって持ち帰られた楽曲です。ロシアで古くから歌い継がれてきた、本来の意味の「民謡」だけでなく、帝政ロシア時代に作曲された歌曲である「ロシア歌曲」、ソヴィエト時代の「ソヴィエト歌曲」が混ざり合った状態で、日本では『ロシア民謡』と称されてきています。

戦後の日本に台頭した共産主義、社会民主主義思想の普及の一環として1950～60年代に職場や大学での歌声サークルや歌声喫茶を拠点として日本全国に展開された「うたごえ運動」によって、これらのロシア・ソヴィエト由来の楽曲に日本語の歌詞が付けられ、世に広まることとなりました。

「遙かなるロシアの大地 ～ロシア音楽メドレー～」では、メドレーを構成する15曲以外にもピアノ伴奏や間奏などに、別のロシア音楽が組み込まれており、全部で20曲以上の曲が約15分の演奏の中に詰め込まれています。お客様方は何曲を聞き分けることができますでしょうか？

### 1. ヴォルガの舟歌 ～ロシア民謡～ (訳:門馬直衛)

エイコラ、エイコラ、もうひとつ エイコラ

それ曳け舟を、それ捲け綱を

アイダダアイダ、もうひとつ エイコラ

### 2. カチューシャ ～ソヴィエト歌曲～ (曲:ブランテル / 詩:イサコフスキー / 訳:関 鑑子・丘灯至夫)

### 3. ステンカ・ラージン ～ロシア民謡～ (訳:与田準一)

久遠にとどろく ヴォルガの流れ、目にこそ映えゆく ステンカ・ラージンの舟

ペルシャの姫なり 燃えたる口と、うつつに華やぐ 宴(うたげ)か流る

### 4. トロイカ ～ロシア民謡～ (訳:楽団カチューシャ)

雪の白樺並木 夕日が映える。 走れトロイカ かるやかに 粉雪蹴って。

走れトロイカ ほがらかに 鈴の音高く。

5. 赤いサラファン ～ロシア歌曲～ (曲: ヴァルラーモフ / 詩: ツィガーノフ / 訳: 堀内敬三)

何ゆえ縫いたもうや 赤きサラファンを、急ぎて用なき 晴れの衣(きぬ)。  
いとしのわが子 しばし聞けよ。いのちの春は 長からず。  
若やぐ頬も色褪せて、楽しき日々はとどまらじ。  
若かりし日を思いつつ、老いたる我の衣つくり。

6. カリンカ ～ロシア歌曲～ (曲・詩: ラリオーノフ / 訳: 楽団カチューシャ)

カリンカカリンカ カリンカマヤ 庭には苺 私のマリンカ エイ  
朝早くとびおきて 顔をきれいに洗う

7. 交響曲第2番 第3楽章 (曲: ラフマニノフ)

8. ピアノ協奏曲第2番 第3楽章 第2主題 (曲: ラフマニノフ / 詩: 青木雅也)

粉雪舞い 暖炉の火あかあかと燃え 二人の心ひとつ 愛の歌 窓ガラスを曇らすよ

9. 歌劇「イーゴリ公」より ダッタン人の踊り (曲: ボロディン / 詩: 青木雅也)

僕のふるさとの歌よ 風の羽に乗り あの人のもとへ 飛んで行け  
愛と自由に満ちた あの人の暮らす 僕のふるさとへ

10. 交響組曲シェラザード 第3楽章より (曲: リムスキー＝コルサコフ / 詩: 青木雅也)

愛のおとぎ話 すべてを数えれば 千と一つ 今宵も語るは 美しきシェラザード

11. ともしび ～ソヴィエト歌曲～ (曲: 不詳 / 詩: イサコフスキー / 訳: 楽団カチューシャ)

12. モスクワ郊外の夕べ ～ソヴィエト歌曲～ (曲: セドイ / 詩: マトゥソフスキー / 訳: 穂高五郎)

13. 黒い瞳 ～ロシア民謡～ (訳: 堀内敬三)

うるわしき君の目よ 狂おしく燃える目よ いつまでも幻に浮かぶのは 黒い瞳  
いつまでも幻に浮かぶのは 黒い目よ この命かけた恋 忘れえぬ瞳

14. ポーリュシカ・ポーレ ～ソヴィエト歌曲～ (曲: クニッペル / 詩: グーセフ / 訳: 橋本 淳)

15. 交響曲第5番 第4楽章より コーダ (曲: チャイコフスキー / 詩: 青木雅也)

川は流れ 命をはぐくむ ロシアの大地に ああ 鐘が鳴る  
白樺の森を 赤々と染めて 日はまた昇る  
青き湖に映る 豊かなる緑深き大地 遙かに

(甲和 伸樹)

## II. 男声合唱とピアノのための 新しい歌

男声合唱とピアノのための「新しい歌」は、様々な詩人の「うた」をテーマにした詩をテキストとして、信長貴富により作曲された。作曲者は楽譜のまえがきで次のように述べている。

『出来上がった曲集は、タイトルこそ《新しい歌》だが、技法的に斬新な試みがあるわけではない。各曲のキャラクターは様々だが、どの曲も旋律主体の比較的シンプルなスタイルをとっている。私が今回の作曲で求めたのはひたすら「うた」だった。合唱曲が、あるいは合唱という媒体が、「うた」としての力を真に持ち得るのかということへ、私なりに挑戦したつもりである。』

### 1. 新しい歌 (詩:F.G.ロルカ/訳:長谷川四郎)

ブィンガースナップ(指鳴らし)を伴って曲が始まる。テキストはスペインの詩人、フェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898～1936)による。ロルカはリベラルな作品と言動のため、スペイン内戦の際にファランヘ党(ファシスト)により銃殺された。38歳の若さで非業の最期を遂げた詩人ロルカの、生命力と躍動感に満ちた「うた」がリズムカルに生き生きと歌われる。

### 2. うたを うたう とき (詩:まど・みちお)

104歳で世を去った詩人、まど・みちお(1909～2014)の平仮名で書かれた素朴な詩。固定観念や既成概念に捉われずに紡ぎだされた「うた」こそが、人の心を深く感動させるのだろう。曲集中、唯一アカペラで作曲され、詩のもつ世界観を見事に描き出している。

### 3. きみ歌えよ (詩:谷川俊太郎)

谷川俊太郎(1931～)の詩に作曲されたこの曲は、非常に親しみやすく、曲集の中でも特に演奏される機会の多い曲である。旋律主体のシンプルで明るい曲調が、詩の飾り気のないニュアンスと相まって、ストレートに心に響く「うた」となっている。詩の中に「ベートーヴェンも友だちさ」という箇所があるが、谷川俊太郎氏が、豊多摩中学時代(旧制)にベートーヴェンを聴き、音楽を知ると同時に、音楽を超えた人間的なはげましを知り、感動したというエピソードはとても興味深い。

### 4. 鎮魂歌へのリクエスト (詩:L. ヒューズ/訳:木島 始)

詩は黒人文学の先駆けとして知られるアメリカの詩人、ラングストン・ヒューズ(1902～1967)による。「うた」は人種差別に苦しんだ黒人たちの生きる支えであった。曲はブルースのスタイルで書かれ、ピアノパートにもジャズの要素がふんだんに盛り込まれている。間奏部分では、「セント・ルイス・ブルース」の旋律が引用されている。

### 5. 一詩人の最後の歌 (詩:H.アンデルセン/訳:山室 静)

詩はデンマークの作家、ハンス・クリスチャン・アンデルセン(1805～1875)による。彼の自伝の冒頭には「私の生涯は波瀾に富んだ幸福な人生であった。それはさながら一篇の美しい物語である」と記されている。しかし実際は、下層階級の出身であるがゆえに、精神的、経済的苦労に翻弄された生涯であったといわれている。この曲では、人生を全うし天へ昇りゆく詩人の神への感謝の「うた」が歌われる。音楽は転調を多用し、ダイナミックに表現されている。終盤のアカペラが感動的である。

## 1. 新しい歌

昼過ぎが言う——影を飲みたい！  
月は言う——飲みたいのは星の輝き  
澄みきった泉は唇をもとめ  
風が求めるのはため息  
匂い 笑い 新しい歌  
これが僕の飲みたいものだ  
月だとかユリの花だとか  
死んだ愛などから自由な歌だ  
あすともなれば一つの歌が  
未来の静かな水面をゆさぶり  
そのさざ波とぬかるみを  
希望でふくらますだろう  
光り輝いておちついて  
思想に満ちた一つの歌  
悲しみや苦しみやまぼろしに  
まだよごれていない一つの歌  
抒情的な肉体なしに  
笑い声で静寂を満たす歌だ  
(未知のものへと放たれた  
めくらのハトの一群だ)

もろもろの物 もろもろの風 その中心にせまる歌だ  
とこしえの心の喜びに 最後にはやすらう歌だ

## 2. うたを うたう とき

うたを うたう とき わたしは からだを ぬぎすてます  
からだを ぬぎすてて ころろ ひとつに なります  
ころろ ひとつに なって かるがる とんでいくのです  
うたが いきたい ところへ うたよりも はやく  
そして あとから たどりつく うたを  
やさしく むかえてあげるのです

## 3. きみ歌えよ

きみ歌えよ 哀しいこと つらいこと ひとりで歌えよ  
あのひとの名を大声で 歌えば 歌えば 歌えば ああ  
うその涙は出てこない

きみ歌えよ 嬉しいこと 好きなこと ひとりで歌えよ  
ばかも卑怯もまるだして 歌えば 歌えば 歌えば ああ  
ベートーヴェンも友だちさ

きみ歌えよ きみのこと 洗いざらい ひとりで歌えよ  
こわれたギター抱きしめて 歌えば 歌えば 歌えば ああ  
誰かがいつか耳すます

## 4. 鎮魂歌へのリクエスト

《セント・ルイス・ブルース》を演<sup>や</sup>つてくれ  
死んだら ぼくの ために。  
すばらしい 音楽が 欲しいんだ  
あそこ 空の高みでは。  
《セント・ジェームス・病<sup>インファーマリ</sup>院》を歌ってくれ  
ぼくを 埋めるときには——  
何故って そこいらで ぼくみたいに  
いい奴が 置いてけぼりに されることはない。

## 5. 一詩人の最後の歌

私を高く運んで行け、お前、強い死よ  
魂の大きな国へ。  
私は神が私に命じた道を進んだ  
額をまっすぐにあげて。  
私が与えたすべては、神よ、あなたのもの  
どれだけ私の富があるのか、私は知りませんでした。  
私が費やしたものはほんのわずかです  
私は枝の小鳥のように歌っただけです。

さようなら、あざやかに赤い一本一本のばらよ  
さようなら、お前、いとしいもの！

ただ私を運んでいけ、お前、強い死よ  
たとえこの世にあるのが楽しいにせよ！  
ありがとう神さま、あなたが与えてくださったもののために  
ありがとう、これから来るもののために！  
死よ、時間の海を越えて飛んで行け  
さあ、永遠の夏の方へ。

※詩の中で斜体の部分は作曲されていません  
スペースの関係で改行を省いての表記があります

(萩原 寛明)

### III. Sea Shanty

Sea Shanty(あるいは Chanty)は、英語圏の海の男たちに古くから伝わるメロディです。船上での厳しい労働で息を合わせるため、あるいは、遠く離れた故郷や、そこで待つ妻・恋人を思って、さらには、酔っ払ったあげくのドンチャン騒ぎの中で、荒くれ男たちは様々な歌を受け継いで来ました。本日は Alice Parker、Robert Shaw の編曲による 4 曲を演奏します。

#### 1. Swansea Town

スウォンジーは、英国南西部ウェールズの港町。愛しいナンシーを残し、船はfrisco (Frisco)=サンフランシスコをめざします。

1. 元気でね、千回もさよならを言うよ。またもや、お前をおいて海を渡らなくちゃいけない。懐かしいスウォンジーに無事で戻れるように！(繰り返し)懐かしいスウォンジーにもう一度。お前、大好きだよ。懐かしいスウォンジーに無事で戻れるように！
2. ホーン岬(南米最南端)を回って、friscoくんだりまで行くんだ。着いたら手紙を書くよ。そしたら、これから帰ると分かるだろ。(繰り返し)
3. さあ、スウォンジーに向けて出発！もう、はっきりと明かりが見える。ナンシーが浜まで来てくれてるに違いない、エプロンを打ち振って。おれの綱をしっかりと掴んで離すなよ。スウォンジーの街をもう一度見たい思いで過ぎて来たんだ。(繰り返し)

#### 2. Good-Bye, Fare Ye Well

船が港にいる間、水夫たちにはなじみの女もできますが、国元に向けいざ出航となれば、もうお別れです。6/8 拍子のなだらかなメロディがたゆたう波を思わせ、ギターを模した伴奏が港の雰囲気醸し出します。

1. お前たち、達者でね、かわいい女たち。さよなら。(繰り返し)さあ、野郎ども、国へ帰るぜ。
2. 「さよなら、元気で」って言ってるだろ。今日で国へ帰るんだ。(繰り返し)
3. 国へ帰るぜ。錨綱を巻くギイギイいう音も「さよなら、元気で」って言ってるみたい(繰り返し)
4. 錨が上がった、帆も張った。さよなら、元気で。心残りだけど、さよなら。(繰り返し)
5. お前たち、達者でね、かわいい女たち。(繰り返し)



### 3. Whup! Jamboree

Jamboree は「ドンチャン騒ぎ」。大西洋を渡る長い航海も終わりに近づき、アイルランドを過ぎてリバプールに向かいます。着いたらやっと羽が延ばせます。

1. 野郎ども、元気出せ、アイルランドはもう近い。2～3 日でケープクリア(アイルランド南端の島)が見えるぞ。ジェニー、カラス麦ケーキを焼いとくれ。(繰り返し) さあドンチャン騒ぎだ、新米水夫ども、綱を引け。ジェニー、カラス麦ケーキを焼いとくれ。
2. さあ、ケープクリアが見えて来た。明日の晩にハリヘッド(Holyhead)を過ぎてロックライト(the Rock light)に向かう。ジェニー、カラス麦ケーキを焼いとくれ。(繰り返し)
3. 野郎ども、ロックライトを回ったぞ。ハンモックをたたみ、道具箱を片付ける。船をウォータールードック(リバプール港内)に入れる。ジェニー、カラス麦ケーキを焼いとくれ。(繰り返し)
4. 野郎ども、ドックに入ったぞ。ダンローリー(の店)に直行！輪になってドンチャンやろうぜ。ジェニー、カラス麦ケーキを焼いとくれ。(繰り返し)

### 4. Shenandoah

Shenandoah は、インディアンの酋長とか、川の名前とか、いくつか説があります。Sea Shanty として歌われますが、元はアメリカ民謡の様です。哀愁に満ちたメロディは世界中で愛され、多くの歌手がカバーして来ました。

1. シェナンド、お前の声を聞きたい。お前、渦巻く川。シェナンド、お前の声を聞きたい。(繰り返し) 遠く、広いミズーリを越えて行かなくちゃならない。
2. シェナンド、お前の娘を愛してる。お前、渦巻く川。シェナンド、お前の娘を愛してる。(繰り返し)
3. 最後にお前を見てから、もう7年経った。お前、渦巻く川。最後にお前を見てから、もう7年経った。(繰り返し)
4. シェナンド、お前とお別れしなくちゃいけない。お前、渦巻く川。シェナンド、絶対にお前をだましたりしない。(繰り返し)
5. シェナンド、お前の声を聞きたい。お前、渦巻く川。シェナンド、お前の声を聞きたい。(繰り返し)

(坂田 裕二)



## IV. 合唱による風土記 阿波

今から55年前の1962年、作曲家三木稔氏により『合唱による風土記 阿波』が生まれた。出版された楽譜に添えられた、作曲者の言葉としての、

『かつての音楽は全て労働に源泉し労働に還元され、思想にも感情にすらも優先したと思われる。この作品に一貫するものはその「労働」であろう。また労働の形態はそれ自体音楽の型式につながり得るものであり、この作品では伝統保存ということよりも、この地方に存在し、または存在した労働の形態から音楽を再創造することに、より多くの努力がはらわれている。したがって、部分的には生の民謡から得られた伝承旋律を使用しながら、多くは全く原型を止めぬものや、架空の旋律で構成されている。』

によって、曲の構成・意図が示されている。具体的には祝祭性の1. 3. 5曲、恋情を歌う2. 4曲からなる素朴な民俗音楽の魅力に満ちた、アカペラ男声合唱の名組曲となっている。

### 1. たいしめ(鯛締)

阿波の入口に当たる鳴門の鯛は、激しい潮流にもまれるがゆえに美味は天下一品と云われている。鯛締は鯛網を引くことであり、同時に豊漁への祝唄でもある。「ダシタナ」「キリワイエホ」「ヨイヤマカセノホイ」といった掛け声がこの曲の主役。最初の歌詩は「花笠音頭」として有名な、日本全国に流布する子孫繁栄祈願の文句そのものである。

うれしめでたの 若松さまは 枝が栄えりや 葉も茂<sup>しゆ</sup>げる  
岬鼻から 戻るとすれば 鯛やサワラが 呼び戻す  
貯めた貯めたがよ この網や貯めた 磯の藻綿で 又貯めた

### 2. 麦打ち

麦打ちは刈取った麦の穂をこいて、ゴザの上に並べ、穀竿を持って向い合い、かわるがわる麦を打つ作業である。曲の掛声は前半が振り上げ、後半が打ち下しになる。「ヨホホー」は山鳥の鳴声を模したもので、ファルセットまたはそれに類似の発声で歌われる。歌詩は男女の密会の心情を山鳥に託した内容で「山では山鳥が、夫婦添い寝して睦まじく夜を過す。その山鳥の尾は長いけれど、人目を忍んで逢いびきをする夜の短いことと言ったら！鐘がゴンとなって夕方が来れば、早くあの娘の元へ行きたい」という恋心をうたっている。

山で山鳥や 尾は長けれど しのおその夜の 短かさよ  
山が暮れても 山鳥や飛ばぬ 可愛い我が子に 魅<sup>ひ</sup>かされて  
鐘がゴンと鳴りや 早よいのいと ここは寺町 何時も鳴る

### 3. もちつき(餅搗)

吉野川の中流域にある農村では、祝い事の度に餅を搗いて配る風習がある。歌詞はその時のお囃しの文句で、祝儀のある家を褒めちぎり、「富貴」「冥加」「鶴亀」などといった縁起の良い言葉をかけている。「ドンタントン」はもちろん三人の搗き手の擬音であり、最初はゆっくり初められ、餅が搗き上がるにつれて加速される。「ゴシャジャンノジャンジャン」で手締めをして出来上がり。

旦那大黒 奥さん<sup>えべす</sup>恵比寿 ひとりある子の 福の神  
御所のお庭で 扇を捨て 扇めでたい 末繁昌  
裏へ出て見りゃ 茗荷や露が 冥加めでたい 富貴繁昌  
伊勢へ七度<sup>ななたび</sup> 熊野に三度<sup>さんど</sup> 若戸様へ ふき参り  
世治まる 思ったなのさ 末は鶴亀 五葉の松  
一石二石三国一の 餅搗きやすました ゴシャジャンノジャンジャン

#### 4. 水取り

「水取り」は畑に移植した後の灌水の時に井戸から水を汲んできて畑にやる作業であり、苦しい藍栽培の中でも、単調できつい労働だったと思われる。この作品の基となった「水取り唄」は、或る老婆の声から作曲者により採譜された。そこには娘時代の生気も陽気さもなく、積み重ねられた過酷な労働の訴えに満ちて、旋律線はくずれ果てていた。歌詞は、作業がきついゆえに気を紛らわすのか、1番は恋人と離れたくない気持ちを歌い2番ははぐらかしの春歌である。

山鳥や 子にこそ迷え たち別れまい この森を  
じわじわと 突っこめや 早や持ち上げる さても具合な はねつるべ

#### 5. たたら(踏鞴)

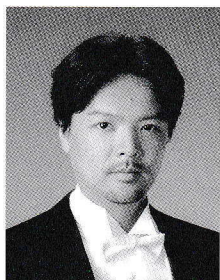
寺の鐘などの大きな鑄造の作業のために、阿波の村々には「たたら組」と呼ばれる組織があった。派手な揃いの衣裳を着こみ、何団体も炉の火の高さを競い合うその作業には数万の見物人が出たという。地の神に安全を祈る「東西南北鎮まりたまえ」で始まり、音頭取りは「浄瑠璃くずし」といわれるさまざまな歌詩を次々に歌ってフイゴ踏みの呼吸を合せ、踏み手からは酒手(酒代)がたっぷりであるだろうな、という掛け合いも熱く汗と脂の渦巻く躍動的な祭典の音楽となっている。

東西東西 東西南北 鎮まりたまえ  
エイエイサッサ エイサッサ ヤットサッサ エイサッサ ヨウそれ踏めや それ踏めや  
親方酒手はどうじゃい どうじゃい  
そんなら踏め踏め ヤッシッシ  
色はちっくり 黒てもままよ 人に好かれる 笑顔よし  
黄金は世界の惚れ薬  
いつも無理に 頭布をかむり 家で遊びを するよりは たたら踏むのが 面白い  
エイエイサッサ エイサッサ ヤットサッサ エイサッサ ヤットコセ ヨイヤナ コレワイセ さあさ何でもせ

(本城 正博)

## プロフィール

はぎ わら ひろ あき  
指揮者 **萩原 寛明**



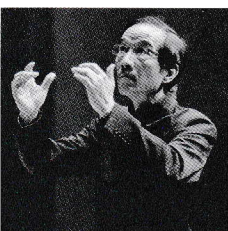
京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。ウィーン国立音楽大学卒業。ウィーンではアーノルト・シェーンベルク合唱団に所属、アーノンクールをはじめとする世界的指揮者らのもとヨーロッパ各地での演奏会や録音に参加、合唱に対する造詣を深める。帰国後はオペラや演奏会のソリストとして多数出演するとともに、合唱の分野でも精力的に活動する。現在、関西二期会会員。神戸女学院大学、兵庫県立西宮高等学校音楽科各講師。大阪男声合唱団では2006年より指揮者を務める。

ほん じょう まさ ひろ  
指揮者 **本城 正博**



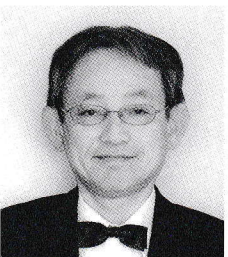
大阪大学男声合唱団第25回定期演奏会にて正指揮者として活躍。発声法を櫻井吉明、福島慶子、小玉晃の各氏、指揮法を櫻井吉明氏に師事。ブスト、パミントゥアン、サボー、コチャール、本山秀毅、信長貴富、松下耕、藤井宏樹、佐藤賢太郎、千原英喜の各氏より合唱指揮の指導を受けるとともに交流を深める。全日本合唱コンクール全国大会にパナソニック合唱団を率い、20回の金賞を受賞する。最近では、中国・ニューヨーク・トロサ公演などの海外演奏、合同演奏等の客演指揮や審査員としても活躍するとともに、委嘱作品初演やCDリリース、若い世代との交流に積極的に取り組んでいる。日本合唱指揮者協会会員。21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」会員。大阪府合唱連盟理事。関西学生混声合唱連盟顧問。パナソニック合唱団常任指揮者。

こう わ のぶ き  
指揮者 **甲和 伸樹**



1977年大阪大学入学と同時に大阪大学男声合唱団に入団。当時の技術顧問 故櫻井吉明氏が開設した「合唱基礎教室」に入門。ベースのパートリーダー及び技術委員長を務める。1981年櫻井氏が率いるコードリベット・コールに入団しパートトレーナー。1982～84年大阪男声合唱団にて副指揮者。東京に転居し暫し合唱から離れるが、10年後に活動を再開、2001年大阪男声東京練習開始を機に練習指導に携わり、定期演奏会、支部単独ステージ、ジョイントコンサートの合同演奏などで指揮者を努める。居住地近隣でも合唱団員及び運営・技術スタッフとして活動し松戸市民コンサート実行副委員長及び合唱団インスペクタ。

さか た ゆう じ  
指揮者 **坂田 裕二**



1979年、大阪大学男声合唱団入団。故 櫻井吉明氏の指導を受ける。1983年、同氏主宰の混声合唱団コードリベット・コール入団。同氏が病に倒れた後、団内指揮者の一人として練習を担当。同団音楽監督・延原武春氏、元指揮者・畑 儀文 氏、ヴォイストレーナー・中村勢津子氏、渡邊由美子氏（元）の指導を受ける。教会等の演奏会で賛美歌、シュッツ、バッハ、ヘンデル、メンデルスゾーン、ブラームス等の宗教音楽を指揮。2011年、大阪男声合唱団入団。同年男声アンサンブルTCBNクワイヤの結成に参加。2013年、同アンサンブルにて第6回全国男声声楽アンサンブルコンテスト「三田ハモらっせ！」最優秀賞。

ピアニスト <sup>さか た ゆ り こ</sup>  
坂田百合子



国立音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業。イタリアローマ、フィレンツェにおけるオペラ歌手故ジュリオ、バルデイ夫妻の伴奏に同行するなど声楽・合唱の伴奏や弦楽室内楽とのアンサンブルを数多く手がけている。ピアノ、室内楽、伴奏法を高市貴久枝、岩崎淑、賀集裕子、チェンバロを新谷久子の各氏に師事。ピアノ演奏以外に千葉県下の合唱団の指揮者を務めるかたわら、2014年より東京都港区文化財団所属の200名を超える合唱団の指導陣としてピアノ伴奏に携わり、指揮者大友直人の指導を受けている。大阪男声合唱団東京支部とは10年以上前より通常練習や演奏会にかかわっている。

ピアニスト <sup>ないとう なほこ</sup>  
内藤菜穂子



兵庫県立西宮高等学校音楽科を経て、神戸女学院大学音楽学部卒業。同大学大学院音楽研究科修了。鈴木豊子記念賞受賞。兵庫県立美術館「美術館の調べ」、兵庫県民会館ロビーコンサート、神戸女学院大学オータムコンサート、同大学新人演奏会、第85回読売新人演奏会、修士課程修了披露演奏会等に出演。これまでに山本未央、小西豊子、松村英臣、成瀬修、坂井千春、山上明美の各氏に師事。現在、大阪スクールオブミュージック専門学校非常勤講師、エリーゼ音楽アカデミー講師を務める傍ら、ソロ、室内楽、伴奏など幅広く活動している。

## 大阪男声合唱団 これからの活動予定

第17回定期演奏会を終えると大阪男声としては「新年度」となり、例年は新しい曲の練習を開始します。しかし、今年9月に大阪のいずみホールで新しい演奏会の開催、また来年1月には現役の第65回定期演奏会への賛助出演を予定しており、そのための練習と来年の定演(大阪開催)に向けた練習を平行して進めることとなります。9月の演奏会は関西大学グリークラブOBと大阪大学男声合唱団OBのジョイント・コンサートで、ゆくゆくは関西地区大学男声合唱団OBによる大合同演奏会の開催をめざしており、その第一弾と位置づけています。

◆関西OB男声合唱演奏会2017

(2017年9月10日(日)、いずみホール(大阪市))

◆第17回東京男声合唱フェスティバル

(2017年11月12日(日)、浜離宮朝日ホール、東京支部が参加)

◆大阪大学男声合唱団第65回定期演奏会

(2018年1月21日(日)、いたみホール(兵庫県伊丹市)、OB合同ステージに賛助出演)

◆第38回四つの男声合唱の集い

(2018年5月20日(日)、兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール(兵庫県西宮市))

## —— 出 演 者 ——

### 【大阪男声合唱団】

| 第1テノール  | 第2テノール  | バリトン    | バス      |
|---------|---------|---------|---------|
| T 国分 和夫 | O 子安 一男 | O 近藤 毅  | O 中野 洋介 |
| O 栗山 和郎 | O 名迫 行康 | T 藤山 進  | O 江村 和朗 |
| T 高木 保  | O 田村 坦之 | O 今村 陽一 | T 木戸 啓喜 |
| O 上田 勝己 | O 細谷 正純 | O 田口 孝人 | O 前川 洽治 |
| O 高山 裕二 | O 藤本 好司 | T 福井 朗  | O 大海 治  |
| T 村田 洋一 | T 宇野 肇  | O 榊田 征也 | O 松宮 啓  |
| O 山口 三樹 | T 富田 義人 | O 荒木 正雄 | O 望月 和彦 |
| O 木下 義和 | O 詠田 英夫 | O 片桐 知之 | O 佐々木泰介 |
| O 内田 裕樹 | O 豊原 力  | T 高島 志信 | O 本城 正博 |
| S 樫木勘四郎 | T 江守 茂和 | T 奥村 秀策 | T 木田 英之 |
| S 平木 秀男 | T 佐藤 圭司 | O 中 雅之  | T 鈴木 啓司 |
| S 寺尾 敏康 | O 久米 勝彦 | O 橋本 達弥 | T 甲和 伸樹 |
| S 松本 浩昭 | T 本間 真人 | O 今井 孝至 | O 坂田 裕二 |
| S 花田 武司 | O 熊澤 宏之 | O 山田 雅朗 | S 渡邊 史信 |
|         | O 明渡 寛  | O 池田 直昭 |         |
|         | T 岡部 寛正 | S 石橋 博  |         |
|         |         | S 清田 展弘 |         |

(O：大阪メンバー T：東京メンバー S：賛助OB)

### 【大阪外国語大学グリークラブOB合唱団（東京）】

| 第1テノール | 第2テノール | バリトン  | バス    |
|--------|--------|-------|-------|
| 西村 信勝  | 若林 允   | 新出 武雄 | 大井 耐三 |
| 板村 哲也  | 赤城 一字  | 西川 哲朗 | 真鍋 一史 |
| 五十嵐 強  | 竹尾 彰   | 浜崎 慎吾 | 南 雄次  |
| 永谷 勉   | 川崎 博康  | 岸本 保  | 樽井 一仁 |
| 保川 一治  | 杉本啓一郎  | 松村 尚人 | 山口 伸  |
| 戸田 貴之  | 稲積 和典  | 福田 洋之 |       |
|        | 坂居 孝二  |       |       |

## 【大阪男声合唱団】

「大阪男声合唱団」(大阪男声)は、大阪大学男声合唱団(阪大男声)OB等の合唱団として1954年に発足し、1959年までは毎年の阪大男声の定期演奏会に賛助出演したほか、関西の合唱祭はじめ多方面で活発に活動を行いましたが、その後20年余りは休眠状態になりました。

1980年から活動を再開し、1982年5月には「五つのOB男声合唱の夕べ」に出演しました。東大、京大、神戸大、大阪市大と阪大のOB男声合唱団が一堂に会するこの演奏会は、団名のイニシャルからANCO Rの会と命名され、今年5月の第37回まで毎年開催を続けています。

1990年代の終わり頃から、阪大男声草創期のOBが職場の現役を引退する時期を迎え、それら諸先輩によってOB会と大阪男声の体制が再整備されました。そして2001年7月には「第1回大阪男声合唱団定期演奏会」を大阪で開催し、その後も毎年、定期演奏会を開催しています。東京ではOB有志が2001年2月から東京での練習を開始、大阪で開催される定期演奏会にも毎年参加してきました。2006年には「大阪男声合唱団東京支部」として東京男声合唱フェスティバルに出演、その東京支部を足場にして、第7回定期演奏会は大阪・東京の2回公演、第8～11回は愛知県瀬戸市を加えた3回公演を果たしました。第12回からは大阪と東京の交互開催に改め、今回の東京開催に至っています。東京支部では2015年度からは、ヴォイストレーナーとして声楽家の石川洋人氏を招き、独自の活動の充実を図っています。

## 【大阪外国語大学グリークラブOB合唱団（東京）】

大阪外国語大学グリークラブの誕生は91年前の1926年に遡ります。団員の減少から1998年に廃部となりましたが、同年東京で、そして2001年には大阪でOB合唱団が結成され、現在では関東、関西、東海地区を合わせて50名を超える陣容となっています。関東地区では2002年に二期会の小貫岩夫氏を指導者に迎え、現在では、小貫先生に加え、坂井美樹先生からも指導を受けています。

数々の合唱曲を作曲した清水脩は在学中にグリークラブの指揮をした大阪外大の大先輩でもあり、清水脩の曲は我々にとって欠かせないものとなっています。最近では、2011年11月に、清水脩生誕100周年記念として、「月光とピエロ」、「三つの俗歌」などを演奏したほか、2014年6月の創部88年記念演奏会や同年11月の大阪男声合唱団との合同演奏会でも「月光とピエロ」を演奏しました。また、昨年12月には、大阪外国語大学グリークラブ創立90周年記念演奏会をおこない、大阪男声合唱団東京支部などの賛助を得て、120名で「月光とピエロ」を歌い上げました。さらに、アンコールでは小貫先生のソロで清水脩の「最上川舟歌」を歌い喝采を浴びました。

今回の Sea Shanty も我々合唱団がよく歌ってきた曲だけに、賛助出演できることを嬉しく思っています。

大阪男声合唱団

<http://wp.handanseiob.com/>